



対象地位置図

(出典: 地理院地図 WEB サイト <http://maps.gsi.go.jp/>)

令和6年9月30日

八王子市長 殿

指定調査機関の名称
代表者の氏名株式会社フィールド・パートナーズ
代表取締役社長 長沢 泰輔

(指定番号 2020-3-0001)

下記のとおり、土壤汚染対策法に基づく指定調査機関として内容を確認し、土壤汚染状況調査報告書として取りまとめたことを確認致します。

記

1. 対象案件

届出者	大和ハウス工業株式会社 南関東支社	
調査対象地	八王子市 兵衛2丁目35-2	(住居表示)
	八王子市 兵衛二丁目35番3	(地番表示)

2. 土壤汚染状況調査報告書の構成

資料	内容	添付チェック
別紙1	土地利用の履歴等年表	●
別紙2	対象地位置図	●
別紙3	公図	●
別紙4	聴取調査及び現地調査結果のまとめ	●
別紙5	指定調査機関確認書・調査結果報告シート	●
別紙6	表層調査に関する資料	●

別冊資料	内容	
別冊資料1	地歴調査の根拠資料	●
別冊資料2	濃度計量証明書(写し)	●
別冊資料3	表層土壤採取記録簿	●
別冊資料4	現場写真	●

3. 法定調査の業務品質管理体制

技術管理者名	■■■■■
技術管理者証の交付番号	■■■■■
業務品質管理責任者	■■■■■
公正性管理責任者	■■■■■

以上

土壤汚染状況調査結果報告シート

1. 調査概要			
調査対象地	住居表示	八王子市 兵衛2丁目35-2	筆一覧
	地番	八王子市 兵衛二丁目35番3	
	今回報告範囲 ※全体の調査対象地に対し、分割して報告する場合		
工業専用地域の有無	無	調査対象地の用途地域が工業専用地域である場合(調査対象地の一部も含む)は「有」を選択してください。	
条例施行規則第55条第3項地域の有無	無	第55条第3項地域については、環境局ホームページの「埋立地の特例の対象地域参考図」をご参照ください。	
今回調査対象地面積	6,793.94 m ²		
深度限定の有無	無		
指定調査機関名	株式会社フィールド・パートナーズ		
指定調査機関の指定番号	2020-3-0001		
準拠法令等	<ul style="list-style-type: none"> ● 土壤汚染対策法(平成14年法律第53号) ● 同法施行令(平成14年政令第336号)、同法施行規則(平成14年環境省令第29号) ● 土壤汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン(最新版 環境省水・大気環境局土壤環境課) ● 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(平成12年東京都条例第215号) ● 東京都土壤汚染対策指針(平成31年4月1日施行) 		

2. 地歴調査結果概要(調査対象地の土壤汚染のおそれの把握)

有害物質取扱事業場の設置履歴	有	2005年(平成17年)～2007年(平成19年)までエヌ・ティ・ティ・アフティエンジニアリング株式会社、社名変更により2007年(平成19年)～2014年(平成26年)までエム・イー・エス・アフティ株式会社、事業の譲受により2014年(平成26年)～2024年(令和6年)までJSWアフティ株式会社が立地していた。(以下、3つの事業場をまとめてJSWアフティ株式会社とする。)	
特定有害物質の使用状況とその形態		・薄膜開発センター内のドラフトチャンバーで評価検査の際にフッ酸を使用していた。 ・使用後のフッ酸水溶液はポリタンクで薄膜開発センター内に保管後産業廃棄物として外部で処理していた。 ・使用器具の洗浄は薄膜開発センター内で行う。2次処理水までは、ポリタンクで薄膜開発センター内に保管後産業廃棄物として外部で処理している。3次処理水は下水排水していた。	
地表の高さの変更(盛土、埋土等)の経緯	無		
既往調査・対策の経緯	無		
その他の経緯	無		
汚染のおそれとその由来		● 人為由来による汚染のおそれがある (おそれを否定できない) 自然由来による汚染のおそれがある 水面埋立て用材料による汚染のおそれがある	
試料採取等対象物質の種類とその理由	ふつ素及びその化合物	JSWアフティ(株)において、使用等が確認された。	
使用の可能性が否定できないものの試料採取等の対象としない特定有害物質とその理由	なし		
土壤汚染のおそれの区分の分類(平面)	土壤汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地	薄膜開発センター及び薄膜開発センターからの排水経路の範囲	別紙6 図-1～図-2
	土壤汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地	薄膜開発センター及び薄膜開発センターからの排水経路の範囲を除く事業活動範囲	
	土壤汚染が存在するおそれがないと認められる土地	緑地帯、従業員駐車場、従業員駐車場に続く車路及び階段の範囲	
汚染のおそれが生じた場所の位置(断面)	現地表面の汚染のおそれの有無とその理由	有 調査対象地に事業場が立地してから、盛土、切土が行われておらず、現地表にて事業活動が行われてきたため。	別紙6 図-1～図-2
	現在の地表より深い位置の汚染のおそれの有無とその理由及び深度	有 ふつ素及びその化合物を含む排水が流れた可能性がある、薄膜開発センターからの埋設配管底面深度。	

3. 調査方法

3-1. 単位区画の設定

起点の位置	X座標、Y座標	X座標: -41667.465 Y座標: -45265.194 世界測地系の平面直角座標系(9系)に基づく	その他	TP 155.841 m その他	m
	その他				
起点の高さ	TP 155.841 m	その他			
起点の高さを計測した場所(面)	境界杭等の頭				
北の定義	座標北				
回転角度	37 度	20 分	39.19	秒	✓
その他					

3-2. 土壤調査方法

※調査地点位置図を 別紙6 図-3 に示す。

現地試料採取 期間	ガス採取				別紙6 図-3
	土壤採取	2024年(令和6年)8月27日～2024年(令和6年)9月5日			
室内分析期間	2024年(令和6年)8月29日～2024年(令和6年)9月11日				
試料採取等対象物質と試料採取を行う区画の選定	全部対象区画	薄膜開発センター及び薄膜開発センターからの排水経路を含む単位区画			別紙6 図-3
	一部対象区画	全部対象区画を除いた、土壤汚染が存在するおそれがあると認められる土地を含む単位区画			
第一種特定有害物質の土壤ガス採取方法	全部対象区画				
	一部対象区画				
	一部対象区画において土壤ガスが検出された30m格子				
	トラベルプランク試験の有無				
	値の補正の有無			濃度の増減は±	
第一種特定有害物質のボーリングによる試料採取方法					
	帯水層底面が確認された深度				
第二種、第三種特定有害物質の試料採取方法	全部対象区画	全部対象区画は、単位区画毎に深度0～0.5mの試料採取を行った。 埋設配管が存在する範囲では、単位区画毎に、埋設配管底面深度より0.5mの試料採取を行った。			別紙6 図-3
	一部対象区画	一部対象区画は、30m格子毎に5地点で、深度0～0.5mの試料を採取し、均等混合した。			

4. 調査結果概要

※1 調査結果一覧表を 別紙6表-1～表-3

に示す。

※2 調査結果総括図を

に示す。

試料採取日	ガス採取							
	土壤採取	2024年(令和6年)8月27日～2024年(令和6年)9月5日						
	地下水	代表地点						

分類	調査対象物質	土壤ガス				土壤ガス(地下水)					
		基準 (ppm) *	調査 対象 区画数	最大 濃度 (ppm)	ガス 検出 区画数	試料 採取等 の省略	基準 (mg/l)	調査 対象 区画数	測定 結果 (mg/l)	基準 超過 区画数	試料 採取等 の省略
(揮発性特定有機化合物)	トリクロロエチレン	0.1	0				0.01				
	テトラクロロエチレン	0.1	0				0.01				
	ジクロロメタン	0.1	0				0.02				
	クロロエチレン	0.1	0				0.002				
	四塩化炭素	0.1	0				0.002				
	1, 2-ジクロロエタン	0.1	0				0.004				
	1, 1-ジクロロエチレン	0.1	0				0.1				
	1, 2-ジクロロエチレン	0.1	0				0.04				
	1, 1, 1-トリクロロエタン	0.1	0				1				
	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.1	0				0.006				
	1, 3-ジクロロプロベン	0.1	0				0.002				
	ベンゼン	0.05	0				0.01				

分類	調査対象物質	基準 (mg/l) *	溶出量調査				代表地点における地下水調査				対象地境界における地下水調査				
			調査 対象 区画数	最深 調査 深度 (m)注1	最大 濃度 (mg/l)	最大 汚染 深度 (m)注1	基準 超過 区画数	試料 採取等 の省略	試料 採取 区画数	最大 濃度 (mg/l)	基準 超過 区画数	試料 採取等 の省略	試料 採取 地点数	最大 濃度 (mg/l)	基準 超過 地点数
(揮発性特定有機化合物)	トリクロロエチレン	0.01	0												
	テトラクロロエチレン	0.01	0												
	ジクロロメタン	0.02	0												
	クロロエチレン	0.002	0												
	四塩化炭素	0.002	0												
	1, 2-ジクロロエタン	0.004	0												
	1, 1-ジクロロエチレン	0.1	0												
	1, 2-ジクロロエチレン	0.04	0												
	1, 1, 1-トリクロロエタン	1	0												
	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.006	0												
	1, 3-ジクロロプロベン	0.002	0												
	ベンゼン	0.01	0												
(特定重金属有機化合物)	カドミウム及びその化合物	0.003	0												
	シアノ化合物	0.1	0												
	鉛及びその化合物	0.01	0												
	六価クロム化合物	0.05	0												
	砒素及びその化合物	0.01	0												
	水銀及びその化合物	0.0005	0												
	セレン及びその化合物	0.01	0												
(特定重金属)	ほう素及びその化合物	1	0												
	ふっ素及びその化合物	0.8	52												
	カドミウム及びその化合物	0.003	0												
	シアノ化合物	0.1	0												
	鉛及びその化合物	0.01	0												
(農業物質)	六価クロム化合物	0.05	0												
	砒素及びその化合物	0.01	0												
	水銀及びその化合物	0.0005	0												
	セレン及びその化合物	0.01	0												
	ほう素及びその化合物	1	0												
(農業物質)	カドミウム及びその化合物	0.003	0												
	砒素及びその化合物	0.002	0												
	水銀及びその化合物	0.0005	0												
	セレン及びその化合物	0.01	0												
	ほう素及びその化合物	1	0												

*基準欄の斜字: 基準は、「不検出」を示す。

分類	調査対象物質	含有量調査								
		基準 (mg/kg)	調査 対象 区画数	最深 調査 深度(m)	最大 濃度 (mg/kg)	最大 汚染 深度 (m)	基準 超過 区画数	試料 採取等 の省略		
（特定 重金属 有害 二 種 等 物 質）	カドミウム及びその化合物	45	0	30m メッシュ	ND	ND	0	無		
	シアン化合物	50	0							
	鉛及びその化合物	150	0							
	六価クロム化合物	250	0							
	砒素及びその化合物	150	0							
	水銀及びその化合物	15	0							
	セレン及びその化合物	150	0							
	ほう素及びその化合物	4000	0							
	ふつ素及びその化合物	4000	52		ND	ND	0	無		
基準不適合範囲の地番										
基準不適合範囲の面積 ^{注2} (m ²)										
汚染原因										
備考	調査対象区画数	52 区画								
		濃度範囲の数値の着色は基準不適合又は第二溶出量基準不適合であることを示す。								

●区画数は、調査対象地内の単位区画(10mメッシュ)の合計数を記載ください。

①30mメッシュの調査（一部調査対象区画の調査）を行った範囲については調査対象区画数、自然由来特例調査を行った範囲についてはその間の対象区画数として計算してください。

②第一種特定有害物質の溶出量調査で代表地点でボーリングを行った場合は、ガス検出範囲を含めた区画数で計算してください。

③統合された区画は1区画と数えてください。

④土壤汚染の存在するおそれがないと認められる範囲の区画数は含めないでください。

⑤全体の調査範囲に対し、分割して報告書を作成している場合、原則、当報告書で報告する範囲の区画数でまとめてください。

注)1 第二種特定有害物質及び第三種特定有害物質の詳細調査の結果を報告する場合は、詳細調査(深度方向調査)結果報告シートを作成してください。

なお、詳細調査結果は、法に基づく調査の場合は第7条第1項又は第12条第1項、条例に基づく調査の場合は第117条第3項の届出で報告してもかまいません。

注)2 土壌ガス等を検出しボーリング調査を実施した場合には、ボーリング調査結果も踏まえて基準不適合範囲の面積を記入してください。

凡 例

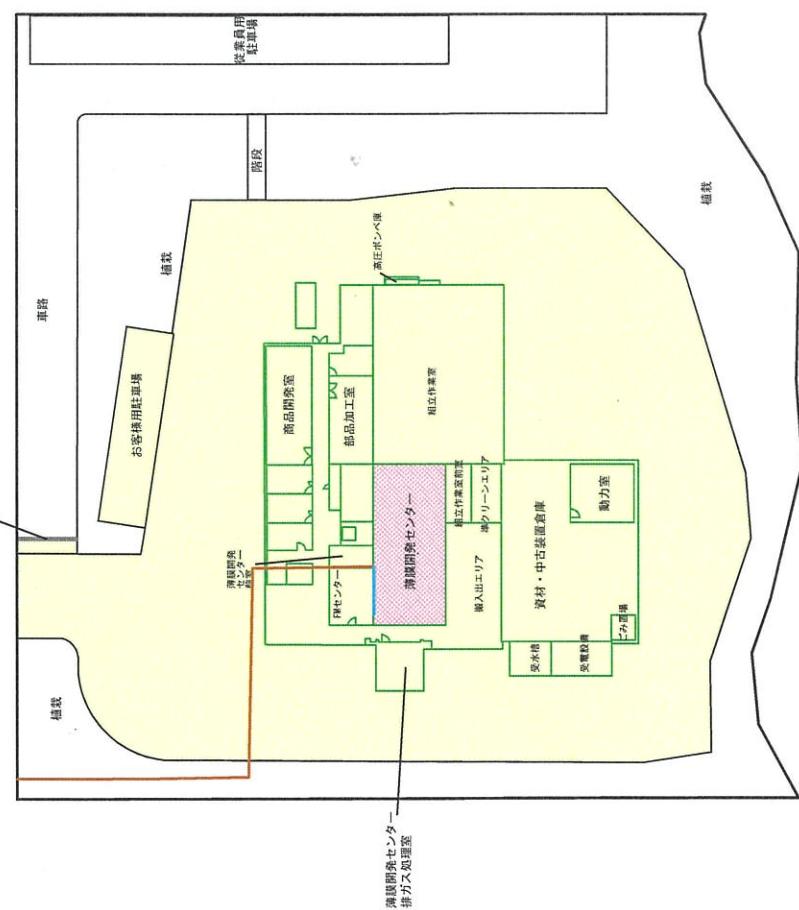
【ふつ素】

【土壤汚染のおそれの区分の分類】

土壤汚染が存在するおそれが多いと認められる土地

土壤汚染が存在するおそれがないと認められる土地

土壤汚染が存在するおそれがないと認められる土地



0m 5m 10m



【敷地境界、建物、設備形状の根拠資料】
Ver.1.0 敷地形状は実測、建物・設備形状は竣工図に基づいた。

プロジェクト名 東京都八王子市兵衛2丁目敷地における土壤汚染状況調査
スケール 1/800 (A4)

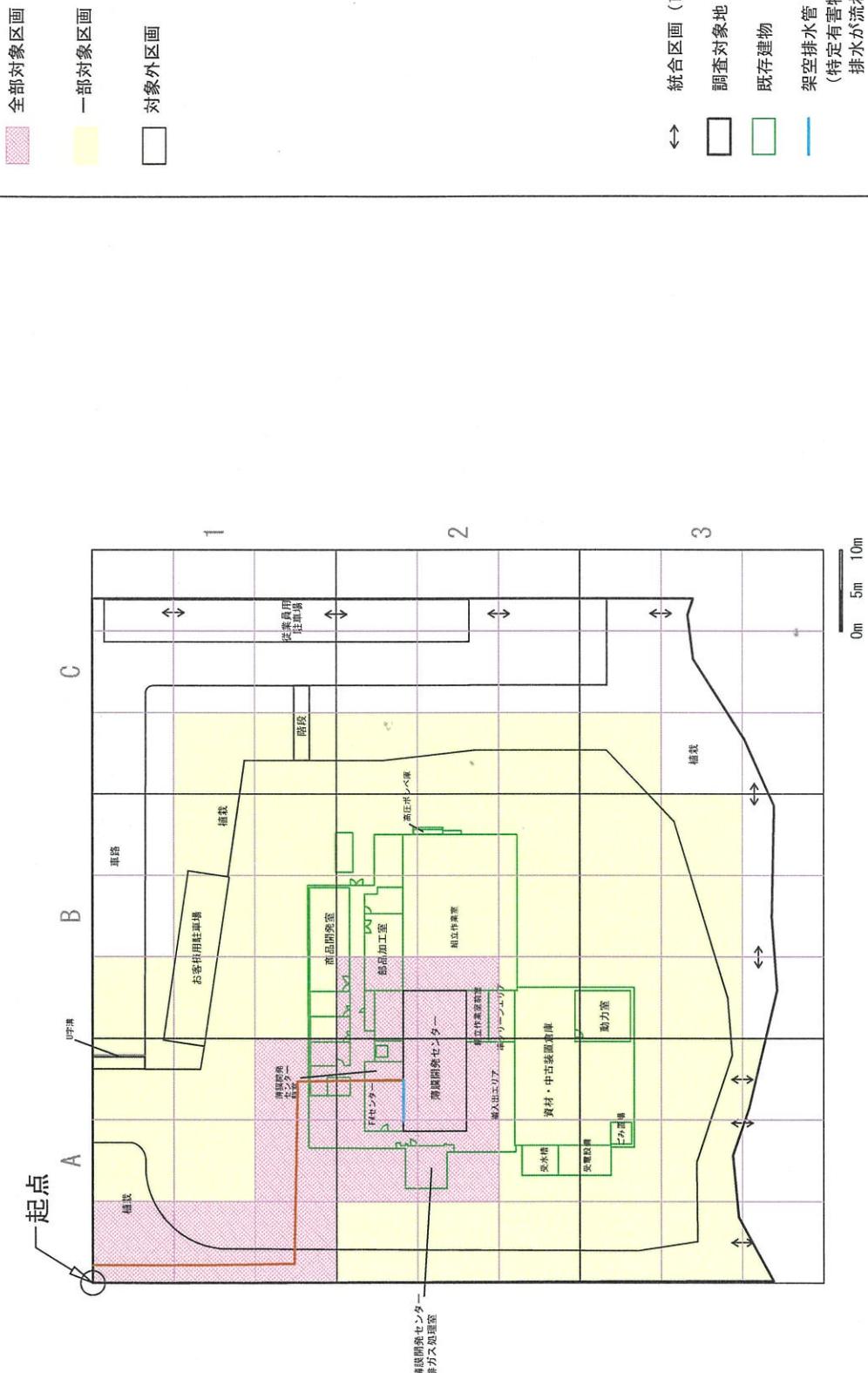
図番

汚染のおそれの区分図

図-1

例 凡

【土壤汚染のおそれの区分の分類】



堆設排水管
(特定有害物質を含む
排水が流れ配管) A

東京都八王子市丘衛2丁目散地に在る五十摊汎涉状況調査

株式会社フィールド・パートナーズ
試料採取等区図

【敷地境界、建物・設備形状の根拠資料】

Ver. 1.0
放地形认识类列、实物·故编

凡 例

【ふつ素】
表層土壤調査地点
5地点均等混合法：9エリア
(36地点)

● 単地点分析：
6地点

○ 配管下調査地点：6地点

【土壤汚染のおそれの区分の分類】
● 土壤汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地
■ 土壤汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地
□ 土壤汚染が存在するおそれがないと認められる土地

↔ 統合区画 (130m²以下)

□ 調査対象地

□ 既存建物

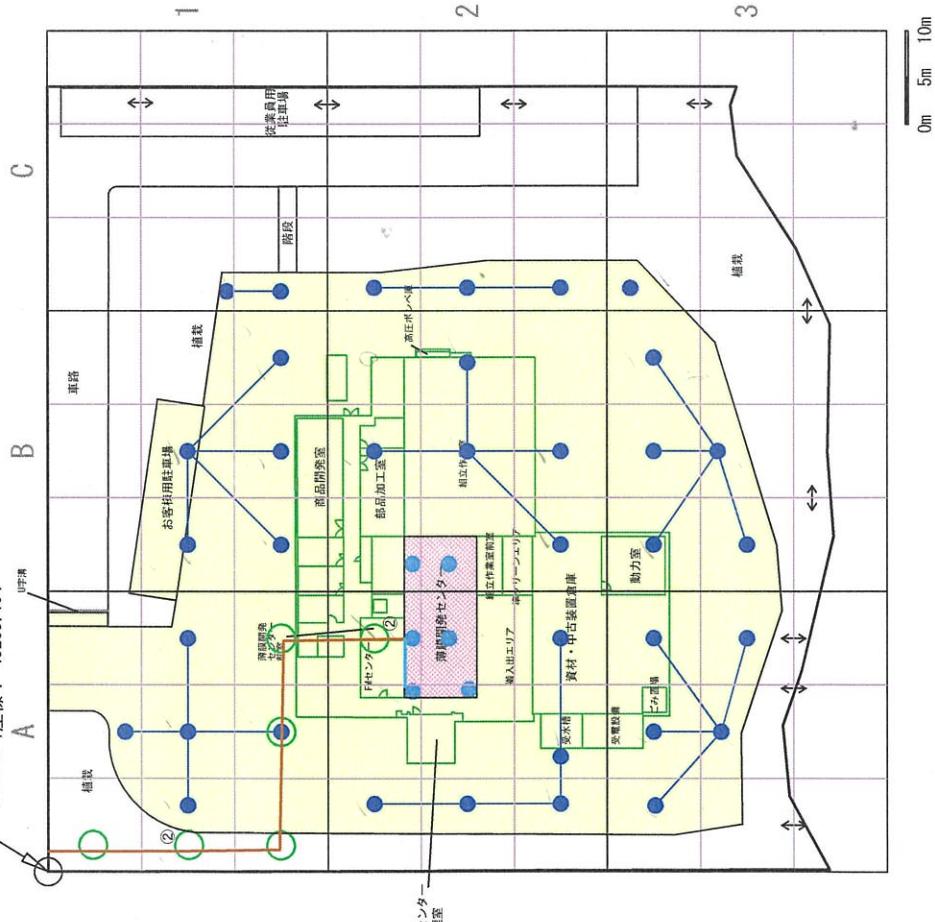
— 架空排水管

— 埋設排水管
(特定有害物質を含む
排水が流れた配管)

A		
1	2	3
A3-4	110.11m ²	
A3-5	93.11m ²	
A3-6	116.57m ²	
B3-8	79.50m ²	
B3-9	49.30m ²	
C1-6	79.85m ²	
C1-9	79.01m ²	
C2-6	79.85m ²	
C3-3	53.81m ²	

図-3
試料採取地点図

起点
X座標：-41667.465
Y座標：-45265.194
標高：T.P. +155.841m
U字標



【敷地境界、建物、設備形状の根拠資料】
Ver.1.0 敷地形状は実測・建物・設備形状は竣工図に基づいた。

プロジェクト名 東京都八王子市兵庫2丁目敷地における土壤汚染状況調査

スケール 1/800 (A4)

図番

図-3